

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和元年9月2日 No.12



2回続けてティーチャーズ・トレーニングを学んできました。今回は、好ましい行動のほめ方を具体的に考えてみました。今回は、好ましくない行動が出てしまった時にどうすればよいかを考えてみます。

前回同様、参考図書として『保育士・教師のためのティーチャーズ・トレーニング』『発達障害のペアレント・トレーニング』(どちらも中央法規発行)を使っています。

特集 ティーチャーズ・トレーニングを学ぶ③

1. 「好ましくない行動」には無反応

好ましくない行動に対して、大人はどのような対応をしているでしょうか？叱ったり、怒った顔を見せたり、ついつい注意が長くなったりすることがあると思います。しかし、何度注意しても言うことを聞いてくれなかったり、全然響いている感じがしないことはありませんか？

子どもによっては、注意されたり叱られることで「先生の注目を引き付けることができた」と感じ、先生の注目を得たいがために、好ましくない行動を繰り返してしまうことがあります。「叱られても、うれしいの？」と思うかもしれませんが、先生が近くにいる自分だけにかかわってくれることを求めている子どもがいるのです。

こういう子どもには、好ましくない行動に否定的な注目をせず、反応しないことが大切です。「好ましくない行動に反応しない」と前回の「好ましい行動をほめる」を組み合わせることで、好ましい行動を増やすようにしていきます。

2. 「無反応」とは？

「無反応」と聞くと、冷たいイメージがあるかもしれませんが、「無反応」とは子どもの存在を冷ややかに無視することではありません。子どもの好ましくない行動を見て見ぬふりをするのです。次のような方法があります。

- * 気付かないふりをします。
- * 聞き流します。
- * 大目に見ます。

その時に、大人は次の点に気を付けます。

- * 好ましくない行動が見られたら最初から見て見ぬふりをします。(最初は注意し、途中から無反応になるというのはNG。)
- * 子どもの様子を見ていたり、子どもの方に体を向けたりしないようにします。
- * 表情や態度で、否定的な注目をしないようにします。
- * 平常心で、好ましくない行動をやめたり、好ましい行動に変わるのを待ちます。

ここでの注意事項があります。今まで、好ましくない行動をした時に「またやってる！」「何度言えばわかるの？」と言っていた大人の様子が変わり、反応しなくなったとわかると、子どもの好ましくない行動が一時的にエスカレートすることがあります。挑発するような行動を取ることもあります。ここが一番の我慢のしどころです。「気づかないふりしていると思って、いい気になって」と怒ってしまったりすると、好ましくない行動は減りません。

3. こんな時はどうすればよいの？

① 好ましい行動と好ましくない行動が一緒に見られる時

片付けはしてくれているけれど、放り投げながら片付けていることがあるかもしれません。このような時は、好ましい行動のみに注目を向け、ほめるようにします。「わー、自分から片付けができたね」などです。大人の注目を浴びるならば、ほめられた方が嬉しいものです。

② なかなか好ましくない行動が終わらない時

教室の中であれば、他の子どもをほめながら「これがやってほしいこと」を伝えるようにします。「〇〇さんは、もう帰りの支度ができたんだね。」などです。また、切り替えがうまくできなくなってしまっていることも考えられるので、「さあ、帰りの支度をはじめようか？」と誘うことも効果があります。

③ 注意しないと、行動をやめないのではないかと不安な時

反応せず注意もしないと、まわりの友だちも同じように好ましくない行動をとってしまうのではないかと不安があります。この時も、好ましい行動をしている子どもをほめるようにします。一度は好ましくない行動に「おもしろそう」と釣られてしまっていた子どもも、ほめられた子どもの行動をとるようになります。

また、教室から飛び出すなど、反応せずにはいられない行動をとることもあります。1回目にも書きましたが、人や物を傷つけるような危険な行動と好ましくない行動は別です。しかし時として、危険とまでは行かないギリギリの行動で、大人の様子を見ることがあります。そのような時は、教員間で連携を取り、他の先生が「教室に戻ろうね」と声をかけたり、学校から出て行かないように、お互いに見守るようにします。ティーチャーズ・トレーニングでかかわっていることを共通理解し、反応しない指導をしているのであって、指導をしていないわけではないことを理解してもらい、協力してもらいます。

④ 好ましくない行動が終わった時に何と声をかければよいのか？

本を読んでいて、なかなか帰りの支度ができなかった子どもがようやく本を片付けた例で考えてみましょう。「やっと本をおしまいにできたね」と声をかけると、結局、好ましくない行動に注目をしていたことになってしまいます。次にしてほしい声かけをします。「ランドセルを持って来ようか？」などで、好ましい行動を誘います。ランドセルを持って来ることができたら、すぐにほめます。

今回の「無反応」はとても難しくつらい指導です。ことわざに「ならぬ堪忍するが堪忍」というのがあります。どうしても我慢できないことを我慢するのが、本当の意味での我慢である…という意味です。少しでも我慢の負担を減らすために、ストレスをためないために、次のような工夫をします。

- ・ 最初からすぐにうまくいくとは考えないようにします。「今日、うまくいったら、ラッキー」ぐらいに構えます。
- ・ 子どもは自分の思い通りにならない存在であるということを心がけます。
- ・ 「～すべき」「～ねばならない」の考え方から、「まあ、いいか」と受け止めるようにします。
- ・ 周りの教員を理解者にする。「大変だよー」とわかりあえる人間関係を作ります。
- ・ 今が子どもの本当の課題に近づいている時と考えます。

平常心



いよいよ次回はティーチャーズ・トレーニングの最終回、「指示の出し方」について考えていきます。